

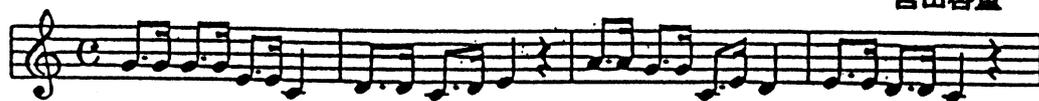
「建学」の精神



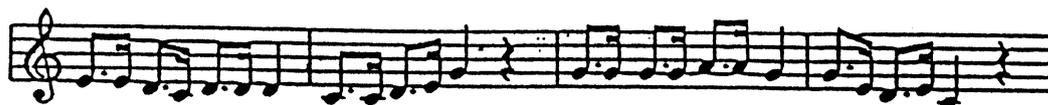
この扁額は、1798年に国学を創建した時、琉球国王尚温が揮毫したものであり、本校の前身である県立第一中の表玄関に掲げられていたが、今次大戦で焼失し、1959年に復元した。「海邦」とは「海にかこまれた邦」のことで、「養秀」とは、「すぐれた人材を教育する」という意味である。「海邦養秀」とは、県立第一中・県立首里高等学校の伝統を貫く精神である。

沖縄県立首里高等学校校歌

作詞 山口泰平ほか
国漢科職員
曲 藤塚卯助
宮田啓重



あおげばたかし べんがだけ ちとせのみどり こきところ



ながめはひろし なはのうみ ばんこのなみの よるところ



これいっせーんの がくとらが きーおいたつべき せいてんち

一、 仰げば高し弁ヶ岳

千歳の緑濃きところ

眺めは広し那覇の海

万古の波の寄るところ

これ一千の学徒らが

競い立つべき聖天地

二、 それ海南の一孤島

世は濁浪の寄せくとも

自彊の巖とことわに

進取の船に棹さして

たゆまず進め我が友よ

理想の岸は遠からじ

三、 ああ果てしなき海原も

雲にそびゆる高嶺も

渡るに何かかたからん

越ゆるに何かかたからん

われに不断の努力あり

われに一如の至誠あり

四、 古城のほとり咲き匂う

文化の華を偲ぶれば

我等がつとめ軽からず

いで中山の若人よ

若き血潮のよどみなく

奮いはげまん諸共に